

以下の文はサイトの内容をまとめたものです。空欄を埋めてください。

問 現状・課題のページ

(ア) ...各国の社会進出における男女格差を示す指標。対象は世界153カ国で、日本は121位。アイスランドは11年連続一位、北欧諸国は例年ランキング上位に入っている。日本の教育...日本は、初等教育や中等教育における差別はないと評価されている。しかし、高等教育の就学率のジェンダー・ギャップ指数の順位は下がっており、義務教育では格差は見られないものの、社会での格差が生じていることがわかる。専修大学への進学率は女性の方が(イ)い。しかし、大学院へ進学する割合は、男性の方が高いことから、専門分野によって男女の偏りがあることがわかる。

世界の教育...女性は早く結婚して家を守るべき、家事に教育は必要ないという(ウ)や(エ)。金銭的な理由で男子を優先的に通わせる(オ)や、(カ)的要因、女子トイレが設置されていないなどの(キ)などの理由により、特にサハラ以南のアフリカでは教育格差が大きく開いている。

日本の政治...政治参加への機会など女性が活躍できる場において平等を目指すことが課題になっている。2018年には超党派の女性議員や市民団体などが活動し、国と地方の議員選挙で男女の候補者が均等になるよう、女性候補を増やす取り組みを政党と政治団体に求める(ク)が成立した。

世界の政治...女性が政治から遠い位置にいる理由の一つに(ケ)が挙げられる。日本の経済...日本の女性が無報酬の家庭内労働に費やす時間は男性の4倍以上である。これにより、キャリア昇格や、昇進の機会が奪われていると考えられる。また、大企業のトップが女性であることに、日本はあまり好意的ではないようだ。さらに課題の一つとして(コ)が挙げられる。

性暴力...FGM((サ))を経験した女性は約二億人にも及ぶ。今年の六月、新型コロナウイルスにより、FGMを行うケースが増加。(シ)として警鐘を鳴らした。また、(ス)と呼ばれる結婚前に肉体関係を持った女性をその家族が殺し、一族の名誉を回復する行為が、中東や南アジアで多発しているという。

未成年の早期結婚...18歳未満の結婚を(セ)と呼び、背景には(ソ)がある。身体的にも精神的にも多大な影響を及ぼす。

欧州...2015年、2020年までに女性の雇用率を上げ男女格差をなくし男女ともに75%の雇用率を達成することを目指す(タ)の五ヵ年計画をスタート。

アフリカ...女の子の純就学率は世界の中でも特に低い。女の子は依然として教育が受けられず、識字や教育レベルの低いままの女性は経済活動にも政治活動にも参加できず悪循環が続いている。

中東...イランやサウジアラビアなどの(チ)の国が、シリア、イエメンより男女格差が少ないなどの結果が出ている。

インド...女性は家庭に入ることを優先させられる。こうした傾向は貧困層や地方部で特に強い。

問2 調査

日本の対策...1999年、(ツ)を施行。1995年に(テ)を策定し、ODAを通じて、女性の(ト)、(ナ)、(ニ)の三分野を中心に支援してきた。2005年にはODAのあらゆる段階において、ジェンダーの視点を盛り込むことの重要性を唱えた。

世界の対策...2015年、(ヌ)という世界共通の目標が掲げられた。目標5に「ジェンダー平等を実現しよう」と記されている。

EUは格差が小さく、先進的な国として注目されている。特にアイスランドは男女平等に力を入れており、（　ネ　）の時間を設ける教育機関がある。

動き出した女性たち…女性たちがハイヒールを強制させられることに対して異議を唱える（　ノ　）というものがある。他にも、（　ハ　）というセクハラや性的被害などの体験を告白・共有するハッシュタグも存在している。しかし、女性たちが声を上げる一方、逆に男性が萎縮してしまうという現状もある。

女性活躍…正社員の場合、女性には「活躍したい」「活躍したくない」「（　ヒ　）」という考え方がある。また、男性にとって「女性活躍」がプレッシャーとなっているケースが存在する。

価値観…男性が働くしかない現実から解放されるためには男性が育児や家事をしやすい環境、そして女性が仕事をしやすい空間を作る必要がある。

キリスト教…伝説上で、差別ともとれる内容がある。魔女狩り等も、女性の人数が圧倒的であった。しかし、イエスは女性を劣った性として見ることはなかったという。

仏教…女性は成仏できないとする（　フ　）、女性が成仏するためには男子になる必要があるとする（　ヘ　）、女は夫、父、息子に従わなければならないという（　ホ　）、そして、女人禁制など、差別的な教えがある。

イスラム教…（　マ　）が認められており、女性は肌を隠さなければならない。しかし、（　マ　）により、未亡人の生活を救ったという事実や、肌を隠す理由が、美しいところを隠すためであるなど、一概に差別であるとは言えないだろう。